令和４年度　　自己評価報告書

令和５年５月
学校法人亀井啓進会　府中白百合幼稚園

１、本園の教育目標

・幼児の心身の発達を促す
・自信や自尊心をしっかり育てる
・基本的な生活習慣を身につける
・人との関わりを豊かにする

２、本年度重点的に取り組む目標・計画

・幼児理解を深める
・コロナ禍における教育内容の充実を図る
・家庭と園とで密に連携をとり、子どもの成長を支える
・子育て支援の充実を図る

３、評価項目の達成及び取り組み状況

＜評価＞　A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼児理解を深める	A	◎専門講師を招いて研修会を行った。一つのテーマをインシデントプロセス法を用いて全職員で協議した。職員により捉えも異なることがあり、多面的な視点で幼児の姿を考えることができた。様々な支援方法を出し合い、保育に取り入れてきた。クラス担当職員だけでなく、園全体で情報を共有し理解を深める大切さを学んだ。 ◎子どもたちの表情や行動など細かい変化を、日々の記録に残した。記録を振り返ることで、子どもたちが何に夢中になって、どんなことを考えているかを捉えられ、より理解を深めることができた。
2	コロナ禍における教育内容の充実を図る	A	◎運動会の鼓隊演奏ではメロディオンの代わりに、小太鼓・中太鼓の人数を増やした。また、カラーガードやポンポン棒を使用することで、新しい表現方法を経験することができた。 ◎音楽会ではメロディオンの代わりにキーボードを使用し、メロディオンではできなかった音色で演奏することで音楽表現の幅が広がった。 ◎感染対策をしながら規模を縮小した形ではあったが、運動会・おゆうぎ会・音楽会と大きな行事を全て行うことができた。友達と一緒に一つのことをやり遂げる達成感や、人前で発表する喜びや緊張など普段の生活では味わえない経験をすることができた。他学年の演目・種目を観ることで、憧れの気持ちが芽生えたり、小さかった時のことを思い出し、自らの成長を実感したりなど心の成長につながった。
3	家庭と園との連携を図る	B	◎ボタン留めが難しいという相談を保護者から受け、ボタンにマスキングテープを貼り、ボタンを見えやすくしてボタン留めの練習をしたり、はさみの向きが分かりやすいよう、はさみに目印のシールを貼ったりするなど、具体的な支援方法を家庭に伝えることで家庭との連携を図った。 ◎トイレトレーニングでは、家庭での様子を聞き、園でも同じことを取り入れ、安心して園で排泄できる環境を作った。また、トイレに好きな物の絵やマークを貼ったり、トイレを駅に見立て「トイレ列車の歌」を歌いながらトイレに行ったりするなど、楽しい雰囲気作りを心掛け、家庭でも取り入れて

			もらえるよう提案した。 ◎インスタグラムを立ち上げ、園の様子を配信した。その結果、子どもたちの活動が家庭にも伝わりやすくなり、降園後の親子の会話につながった。また、母親だけでなく、父親にも幼稚園生活の姿が写真を通して伝わり、育児に参加するきっかけにもなった。
4	子育て支援の充実を図る	C	◎園でふれあい動物園を開催し、地域の方も参加できる時間を設けた。 ◎2歳児クラス「チェリークラブ」では、子育て相談や、入園準備の質問に対応し、安心して園生活がスタートできるようサポートした。 ◎子育て支援計画の見直しを行い、令和５年度の子育て支援は、幅広い年齢を対象に、地域に開かれたものとなるよう計画を立てた。具体的には、０～１歳児対象のころころルーム・月一回土曜日開催の未就園児イベント・えいご遊びを企画した。 ◎共働き家庭の支援のため、令和５年度の預かり保育は、早朝・延長預かりの導入、土曜祝日年末年始を除く毎日実施の計画を立てた。

４、総合的な評価結果

評価	理　由
B	コロナ禍で課題が多い中でのスタートだったが、皆で工夫しながら滞りなく保育活動ができ、子ども達の成長が見られた。また、当園が大切にしている「ひとり一人を理解し、丁寧に寄り添い保育・教育を行う」ということを意識しながら保育・教育活動が進められた。 一方で、地域の子育て支援の見直しを行った。令和５年度はより多くの子育て家庭にとり、開かれた園を目指し、保護者同士の交流の場、情報交換の場を提供していきたい。また、保護者の子育てに関する相談にのり、より良い子どもの育ちを実現する手助けをし、子育ての喜びを保護者に再認識してもらえるよう努めたい。

５、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育活動の充実	本園の教育目標でもある「幼児の心身の発達を促す教育」「自信や自尊心を育む教育」「生活習慣を身につけ人とのかかわりを大切にする教育」は、継続して丁寧におこなう。 教育活動の質の高さを保つため、日々の研鑽と職員間の学び合いを大切にする。
2	幼児理解を深める	ひとり一人を大切にし、寄り添いながら保育する。子どもたちの表情や行動の変化を見逃さずに捉え、保育に生かしていく。 また、園全体で子どもの情報を共有し理解を深める。
3	地域に開かれた子育て支援	2歳児クラス「チェリークラブ」を園職員が担当し、充実を図る。 未就園児対象の「英語あそび」「土曜イベント」、０～１歳児対象の「ころころルーム」を立ち上げ運営する。
4	預かり保育のスムーズな運営	令和５年度より、早朝・延長預かり保育の導入、土日祝日・年末年始を除く毎日預かり保育を実施する。スタート年となるので、スムーズな運営を心掛ける。
5	英語あそびの導入	子ども達が異文化に興味関心が持てるよう、現在の教育カリキュラムを大切にしながら保育内に英語活動の時間を取り入れる。

６、学校関係者評価

（１）幼児理解を深める

・専門講師を招き、研修会を行うことで子どもたちの細かい変化を抑え、子どもたちの丁寧な教育につながっていると感じた。

（２）コロナ禍における教育内容の充実を図る

・コロナ禍で中止や縮小していた行事が再開され、参観人数も緩和されたことで、子ども達の頑張っている姿を家族で見られる機会が増えた。

・コロナ禍以前と比べて制約が多い中で音楽会でメロディオンの代わりにキーボードを使用するなど様々な工夫をしてコロナ禍以前よりも教育内容を充実できていると感じた。

（３）家庭と園との連携を図る

・インスタグラムにより子どもたちが園で楽しく過ごしていることが伝わっており、家庭との連携がとりやすくなっていると感じる。

・コロナにより先生方と話す機会が減っていたが、電話で日々の成長を報告してれたり、子ども達への対応が手厚いことがより分かったように思う。ふれあい動物園ではアレルギーのある子に対し、最大限参加できるよう配慮していただいた。おゆうぎ会で人前に立つのが苦手な子に、開演前に幕の中から客席を見せ落ち着けるように対応していただいた。

（４）子育て支援の充実を図る

・来年度に向けて、幼稚園の体制が変わっていくことに伴い、母の会の仕事も見直し、１人一役や廃品回収の廃止を了承していただいた。

・地域の方に向けたイベント等も多く開催する準備を進めており、地域の子育て支援に貢献する園だと感じる。

（５）その他

・夏の水遊びでは、洗剤の容器など自分達で持ってきたものを使って遊ぶなど工夫が見られるが、園庭に設置できるような大きめのプールで遊べると、より充実できると思う。